

教育総合研究叢書第2号に寄せて

教育総合研究所は本年度、開所2年目を迎えた。

今年度は、「学士課程教育のアウトカム評価とジェネリックスキルの育成に関する国際比較研究」(研究代表者：濱名篤学内研究員, 科学研究費補助金受給), 「ステークホルダーが求める初等教育教師の資質能力とその養成課程」(研究代表者：濱名陽子学内研究員), 「大学初年次における読解力向上のためのカリキュラムおよび教材開発に関する実証的研究」(研究代表者：上村和美学内研究員), 「英語学習における自律学習の促進と支援」(研究代表者：Jonathan Aliponga 学内研究員), 「アジアの英語教育におけるリーダーシップ：アジアに適した教材の開発と教員養成」(研究代表者：Gerald Williams 学内研究員, 科学研究費補助金受給) の5つの研究プロジェクトが実施された。

プロジェクトの内容をみると、大学教育でのジェネリックスキルの育成とアウトカム評価、大学初年次における読解力向上のための教材や手法の開発、初等教育教師に求められる資質能力の析出とその養成、大学での英語の自律学習を促進し支援する試みとしての、イングリッシュラウンジに関するパイロット研究、アジアに適した英語教育の教材と方法の開発など、高等教育を中心に、初等中等教育にもおよぶ広い領域にわたる研究テーマで、活発な研究活動が展開されたことがわかる。

この叢書は、研究プロジェクトの研究成果を中心に、本学の教育内容や教育方法と密接に関連する個人研究についてもその成果を掲載している。活発な研究活動を展開された学内研究員、学外研究員、その他の皆様に心から感謝申し上げるとともに、教育総合研究所が今後さらに本学に定着し、その研究成果を内外に広げ発信していくことを期待している。

2009年3月

所長 濱名 陽子